

開催日:2022年12月18日(日) 18:00~20:20

会場:Zoomによるオンライン会

参加者: 清水(49C)、阿部(桂)(46修S)、奥山(52E)、松永(47C)、佐野(62W)、
荒居(39S)、木村(60W)、阿部(雅)(47修C)、村岡(H15修M)、二宗(46M)
森口・中村・瀬尾(四国)、荒井(佐野)、倉林(平塚)、松原(さいたま)

合計 16名

今回は、東海連合支部以外に4支部(6名)からの参加で、総勢16名で開催した。

米国駐在6年半で帰国したH15卒の若手の参加があったことはうれしい。

近況報告では、コロナ感染拡大などで行動制限される中、工夫しながら徐々に活動の範囲を広げようと努力している人も出てきている。

今回のプレゼンは、60Wの木村謙之さんで、



「東海道五十三次徒歩で完歩 東海道一人旅」の話であった。

木村さんは、4年前に途中退社し現在は中小企業診断士の資格を取り活動中。同時に愛知大学での非常勤講師として、社会人向けの講座を担当している。

東海道を歩くきっかけになったのは、東京に単身赴任していた時のことであった。会社があった品川から住んでいた鎌田まで何気なく歩いてみると意外に歩けることに気が付き、それではと東海道を歩き始めた。

東海道は日本橋から京都三条大橋まで53次490km、さらに大阪高麗橋までの57次550km、12の国を通過の街道である。

2016年から2019年までの3年3か月、27日(回)をかけて57次を完歩した。

歩くに際して自分なりの7つのルールを決めた。日帰りで、安価で、新幹線・特急・タクシーは使わず、旧道を歩くなどである。

一日9~10時間(歩くのは6~7時間)で土曜日の歩き、日曜日は休息の日とした。

持ち物はタオルとペットボトル一本、それに歩く道が詳しく書かれているガイドの本という軽装備である。

愛知県の宿場では、宮宿247軒、桑名120軒、岡崎112軒などの旅籠が存在しており、多くにぎわっていた。



三大難所と言われた箱根峠、さった峠、日坂峠などは石畳などで大変な道であった。

歩いていると、古い街並みや建物が見られ、「関の宿」は唯一当時の名残を残している。



「歩く魅力は?」、「1泊2日の方がより東海道を理解できるのでは」などの質問があった

が、とにかく歩くという目的が最優先であり、完歩という達成感が得られたとの言葉であった。「一日歩いた後のビールはうまかった。」と付け加えてくれた。

現在は、日本百名城、続百名城に挑戦中であり、残り44城の状態である。来年度達成目標であり、この話も聞けそうである。

幹事のつぶやき一言

東海道の話の前に、荒牧地区で過ごした教養学部の様子も報告してくれた。部のOB会等で最近訪問した人から、建物が増えたり樹が大きく育って、より大学らしくなったとの言葉もあった。学生時代に勉強以外でのつながりの強さを感じた。名城巡りについては、参加者で挑戦している人もあり、いい情報交換の場となった。こういう面からの繋がりも期待でき、広がってほしい。

(幹事 二宗 46M)